

このコースはJR新家駅から種河神社を經由して『お菊山』に登り、泉州平野を展望、金熊寺の妙見さんと呼ばれる蓮信寺を経て金熊寺観音院／信達神社に下ります。コースに沿った見所を簡単に紹介致します。

①新家の三本松

村の争いが絶えなかつた三谷原（現在の新家地区）は寛永元年（1624）9月に和解除する。その記念として三本松の幼松の根元を結んで植えた。共に栄えるよう願った三本の幼松は、互いに優劣なく空高く繁茂（はんも）したが根元が一本のままだった。松枯れしたのが昭和50年に伐採し、幹だけ残した。



②たまねぎ顕彰碑

玉葱の生産技術を伝えた岸和田の坂口平三郎、安定栽培を確立した今井佐治平らの田尻の葱農家四名、流通販売ルートに乗せた新家の森本徳松の功績は有名。それぞれ別の地に顕彰碑があり、新家では森本徳松の碑が建っている。



③種河神社

元和年間（1615～）、近隣の神を迎えた社殿を建て、寛永元年（1624）に仁和寺から種川（種河）明神の神号を授かり、寛永5年（1628）に三谷原の総社となった。明治の神仏分離令・合祀令（ごうしれい）のときの組み換えが行われ、種河神社と改称し、以来新家住民に親しまれ年間を通じて神事が行われ、元日には笠山参拝、節分には湯神楽が執り行われている。



④笠山・白山神社

笠山の標高は175.5m、和泉山脈の端部にあたり、関西国際空港から遠く明石大橋を望むことができる。白山神社は役行者（634～）加賀白山神社の神仏混合、白山権現を勧請して祀った。平安末期に新義真言宗の開祖・覺鑿上人が中興した修験道の山である。



根来寺の本坊直轄地で山内12ヶ所の一つである。幕末に石の宝殿を建てた。石柱には文化14酉（1817）と刻まれている。

⑤畦の谷地藏〔延命寺〕

木々の間の岩肌を見ると、常に湿っていて汗をかいたようだったので『汗の谷』と呼ばれたという。根来の寺域だったところ、根来の僧が病氣平癒（へいゆ）の願いを込めて地藏尊を刻んで祈念したことが起源。三谷原を思い、早魃（かんばつ）には雨乞い祈禱を、水害時には救護食料が届いたと古記は伝える。現在は頭的地蔵と言われ、近隣から学業成就、頭痛平癒の祈願に訪れる人が多い。



⑥お菊松（経納山）

大坂夏の陣（慶長20年・1615）を前に、豊臣秀次の落胤（らくいん）・お菊は豊臣方の密使となって紀州山口村から大坂城に向かった。途中、経納山で髪を切り落とし男装した。その髪を松の根元に埋めた。いつしかその松をお菊松、その山をお菊山と呼ぶようになった。茅渚の海の眺望抜群。初夏には笹刈りがいっぱい！



⑦蓮信寺

（日蓮宗妙見山 十界大曼荼羅を本尊とする法華道場）お菊山から高倉林道を過ぎ尾根を歩くと蓮信寺参道に続く。昭和になつて三十体の三十番神を鎮座させ庫裡（くり）、本堂、大黒堂、妙見堂を次々新築して再興し、金熊寺の妙見さんと呼ばれる。平成27年11月に本堂が再建された。（日蓮上人像、鬼子母神像を祀る。）



山頂境内には研修道場、参籠殿（さんろうでん）、開山堂、七面堂なども新築され、日蓮聖人銅像、水子観音堂、魚籃観音堂、行場のお滝（浄心の滝）など多彩。幕末に北辰妙見大菩薩を勧請（かほんじょう）して近隣里人の尊崇（そんじゆう）を集めた歴史を持つ。尊像の背には安政6年（1859）開眼とある。厨子（ずし）には又久2年（1862）とある。

⑧金熊寺

1300年前、役行者が金峯（きんぷ）熊野霊神を勧請したことにより金熊寺と号した。入里を絶つ山岳仏教の拠点であり、信達荘一帯に大きな役割を果たした。天正年間の兵火により全焼したが樽井権現社がこの地に移り、金熊権現社となり、信達13村を荘社として役割を果たしていた。江戸中期より梅の栽培を始め観梅の名所としても知られ、約2千本の梅が花を咲かせる。



⑨信達神社

むかし、樽井の海岸に神武天皇が漂着したことで、神武天皇を祀ったのが始まり。樽井権現社がこの地に移り金熊権現社となり、信達13村の鎮守・産土神（うぶすなかみ）としての役割を果たした。天正13年（1585）秀吉の根来攻めの兵火により全焼した。明治の神仏分離令により金熊寺と神社が分離され信達神社となった。

